

パナソニック松愛会
絵画部30周年記念誌



目 次

1. 「30周年記念誌」発刊にあたって	
松愛会絵画部 代表 廣瀬禮男	1
2. 祝 詞	
松 愛 会 会 長 山下美明	2
3. 絵画部の歩み	
3-1. 会員動向と制作活動	3
3-2. 展覧会とボランティア展示活動	4
3-3. 写生旅行と写生会活動	
その1	5
その2	6
その3	7
4. 写真で綴る絵画部の歩み	8
5. 会員作品	23
6. 会員名簿	74
7. 編集後記	75

「30周年記念誌」発刊にあたって

松愛会絵画部 代表 廣瀬禮男

絵画部発足から30年が経ち、感慨深いものがある。仕事の合間に本格的に絵を描き始めたのが1963年頃であった。定年後有志8名が集まって絵を描くグループができて、1981年に正式に絵画部がスタートした。以来欠かすことなく毎月2回の屋外写生会と1回の屋内写生会を定期的実施してきた。また、対外的には日曜画家展（京都）に団体で毎年参加を継続してきている。このような継続的な活動で研鑽を積むことこそが絵画部の原点であった。写生会は毎回当番が変わり、当番の方は新人といえども適切な写生地を選定するのに苦労することによっても絵心が磨かれてきた。このように全員で絵画部が運営されてきたのが今もって活発な活動ができる所以である。また、ボランティア活動として絵を展示する施設も松下記念病院はじめ数箇所拡大し、多くの関係者に喜ばれるようになっているのはわれわれ会員一同の喜びでもある。

定年後の人生を健康で楽しく趣味に打ち込めることは長生きの源でもある。「楽しく元気に絵を描こう」をモットーに30年が経過した。現在、会員数は51名で定例的な活動も活発に継続実施されている。しかし、高齢化は絵画部にも押し寄せてきており、絵画部の平均年齢は75歳である。新人の入部を促す絵画教室も今までに3回実施し、そのたびに若い人が入部してきて若返りが図られてきた。今後も若返りを図りつつ、絵画部の活動を維持してもらえらものと確信している。30年も経つといろいろな資料が散逸し始めているので後輩に資料を残す意味でも今回の絵画部全員参加の記念誌発刊は意義のあることである。特に今回は会員各人が自ら選んだ絵を2点だけ平等に掲載するページを多く取った。各人にとっても思い出深い30周年記念誌になること、および今後絵を描く意欲を駆り立てる動機になることを願ってやまない。また、今まで長年にわたり絵画部の活動を支えていただいたパナソニック松愛会事務局をはじめ多くの方々にお世話になったことに対して厚く感謝申し上げますとともに、今後とも一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。以上、30周年記念誌の発刊にあたり一言ご挨拶を申し上げます。

祝 詞

松愛会 会長 山下美明

絵画部創部30周年という節目を迎えられ心よりお祝い申し上げます。現在、松愛会全体で活動している19の同好会の中核として、歴史と伝統を誇り、日頃から活発な活動をされている姿は大変喜ばしい事と思っております。

今、好天のもと、スケッチブックを携え外に飛び出し、思い切り外気を吸込ながら、三々五々CANVASに向かって奮闘している皆様のシーンを思い浮かべ、かつ憧れを持って挨拶文を書いています。

私のあこがれ！ それは、退職後の第二の人生の仄かな高尚な気持ちをもたらし、「養生（よせい）」を彩ってくれる憧れの趣味の一つが絵を描くことです。

しかし、憧れのままで時のみ経過し、一步踏み出す勇気もなく、唯、鑑賞する側で今日に至っており残念でなりません。

絵画展に接していつも感じるのは、皆さんは時間に制約のあった現役時代から解放され、ボランティアも含め多彩な活動に思う存分絵筆を振り、第二の人生を謳歌し楽しんでいる様子が、静物や人物の画題の豊かさの中に何うことが出来るという事です。

絵画というものは創造的で、本人だけでなく鑑賞する周りの人たちへも知的好奇心を湧き立たせ、心身の健康維持と老化防止にも繋がるものと思います。是非、これからも松愛会活動の大切な「資産」のひとつとして守り育てて行って頂きたいと期待しています。

30周年という長い間、伝統の灯を守り続けてきた歴代の世話役の皆様に謝意を表すと共に、今後とも部員の熱い思いで益々発展させ、40年、50年を迎えるよう、更なるご発展をお祈りして記念誌発行の祝詞といたします。

絵画部の歩み—会員動向と制作活動

西暦	元号	周年	会員の動向 (人数)				制作活動 (回数)			延べ回数	延べ参加 人数
			年度末(女性会員)	入会	退会	室内	屋外	宿泊			
1981	S56	発足	8		廣瀬・久保・松下・佐々木 渡辺・佐久間・谷村・馬場		7	2	0	9	96
1982	57				井奥・頼経・浅野・篠崎・山本 佐藤・竹本・山下・梶野・村上	松下・谷村	55	53	10	128	1148
1986	61	5	16								
1987	62				富田・平井・磯野・竹吉・小林 柏木・大塚・百瀬・小池・秋田	馬場・佐々木・富田 村上・浅野・柏木・渡辺 大塚・佐久間・梶野	70	102	9	181	2235
1991	H3	10	16								
1992	4			(2)	森本・大久保・薄田・三木・吉池 竹本・丸目	百瀬・頼経・篠崎・森本 薄田	66	99	10	175	2274
1996	8	15	39	(8)	第1回絵画教室修了者20名						
1997	9		39	(8)	石田	小林	12	17	2	31	861
1998	10		41	(8)	高須・隠岐・竹村・片瀬	戸崎・高井	12	16	2	30	874
1999	11		42	(9)	畠中・木谷	池田・畠中	12	16	2	30	885
2000	12		40	(8)	蓼沼	阿部・蓼沼	12	19	2	33	902
2001	13	20	41	(9)	森垣		12	14	2	28	761
2002	14		45	(9)	金子・木野・楠本・高塚		13	19	2	35	823
2003	15		56	(11)	第2回絵画教室修了者11名 (黒田・遠田・山中・佐藤・澤井 中尾・高木・土屋・和泉・久保田 眞鍋)		14	21	2	37	1184
2004	16		50	(10)	周藤	片瀬・高塚・竹本・周藤 金子・村本(勝)・村本(延)	14	19	2	35	956
2005	17		52	(11)	鳥居・立田		14	19	2	36	984
2006	18	25	53	(11)	六車・太田	鳥居	14	12	2	29	1020
2007	19		51	(11)	大上	桜間・新居・西谷	14	18	2	34	1009
2008	20		49	(11)	笹川・本田	山中	14	19	2	35	980
2009	21		57	(14)	第3回絵画教室修了者8名 (清水・三輪・河池・月森・松尾 弘田・黒田・清水)・吉村・岡田	佐藤(忠)・岡田	15	11	2	28	1091
2010	22		52	(13)		山本・秋田・白木 野村・茶谷	15	13	2	30	1016
2011	23	30	51	(13)		山下					

絵画部の歩み—展覧会とボランティア展示活動

西暦	元号	周年	展覧会(作品点数)			ボランティア展示(作品点数)						
			小作品展	日曜画家展	絵画部展	松下情報システム パナヒルズ	松下記念病院	OBP 大寿会病院	サンリス 守口	サンセール 香里園	松心会館	
1981	S56	発足		第29回								
1982	57	}		第29回~33回	第1回~3回							
1986	61		5		63	143				電池文化祭に展示		
1987	62	}		第34回~38回	第4回~8回							
1991	3		10		85	219	松下情報システム 展示開始			電池文化祭に展示		
1992	4	}		第39回~43回	第9回~13回	⇩	電池文化祭&第1回絵画教室発表展					
1996	8		15		53	244	40	OBP 展示開始 ⇩				
1997	9				ルミエール ⇩		展示開始 ⇩	30				
1997	9			15	76	52	48	30				
1998	10			16	98	52	48	30				
1999	11		第1回開催 ⇩	25	78	52	48	30				
2000	12		40	27	82	52	48	30				
2001	13	20	40	21	72	52	48	30		展示開始 ⇩		
2002	14		37	19	75	52	48			48		
2003	15		47	22	89	52	48		展示開始 ⇩	50		
2004	16		43	24	88	パナヒルズ 展示開始 ⇩	48		48	48		
2005	17		45	27	89	10	48	大寿会病院 展示開始	47	50		
2006	18	25	42	30	83	14	48	⇩	52	52		
2007	19		44	35	86	10	57	28	50	49		
2008	20		42	30	84	14	47	28	50	50	6	
2009	21		42	26	97	10	10	26	52	46	6	
2010	22		48	28	85	14	10	27	54	52	6	
2011	23	30										

絵画部の歩み—写生旅行と写生会活動・その1 (15周年まで)

区分	地 域	写生地	箇所	全風景
写生旅行	北海道	函館・小樽・他	1	36
	信 越	蓼科・他	4	
	北 陸	三方五湖・他	5	
	東 海	志摩半島・他	5	
	近 畿	南紀一周・他	7	
	中 国	牛窓・他	9	
	四 国	小豆島・他	2	
	九 州	湯布院・他	3	

区分	地 域		写生地	箇所	全風景
写生会	大阪府	北部	箕面・他	21	190
		中部	中之島・他	49	
		南部	我孫子車庫・他	11	
	京都府		伏見・他	34	
	兵庫県		メリケン波止場・他	32	
	奈良県		今井町・他	22	
	滋賀県		伊吹山・他	17	
	和歌山県		雑賀崎・他	3	
	三重県		赤目四十八滝	1	

絵画部の歩み—写生旅行と写生会活動・その2 (15周年以降)

■ : 写生旅行

月	週	1997年(H09)	1998年(H10)	1999年(H11)	2000年(H12)	2001年(H13)	2002年(H14)	2003年(H15)
1月	2						大山崎	自画像
	3							鶴見緑地公園
2月	1	近江舞子	桜ノ宮周辺	門真砂子水路	新世界	大阪城	京都植物園	大阪NHK
	2			アメリカ村	比良山		比良山	平岡神社梅林
3月	1	神戸北野町	法輪寺	伊吹山	富田林寺内町	宝塚	上加茂	中山寺
	2	平岡梅林	万博公園	天王寺周辺	服部緑地		奈良三輪	奈良公園
4月	1	大阪城公園	神戸ワイン城	姫路城	夙川	大覚寺	八幡背割	岸和田城
	2			八幡市周辺	神戸北野町	桜ノ宮公園	近江八幡	半木の道
5月	1	志摩半島	私市植物園	箕島	倉敷	加太	大阪南港	嵐山
	2		奈良東大寺	中書島	山田池	中ノ島バラ園	久安寺	青蓮寺湖
	3		能登					
6月	1	今井町	高槻菖蒲園	OBP周辺	鶴見緑地	摂津峡	長居公園	野崎観音
	2	うつぼ公園		城北公園	高槻城		京都八瀬	長岡天神
7月	1		矢田寺	醍醐寺	保津川	兵庫旧県庁	ハーバーランド	王子公園
	2		淀屋橋周辺	浜寺公園	京都御苑			蹴上
8月	1		糺の森	唐招提寺	鞍馬	宇治周辺	人物写生	人物写生
	2				奈良高畑町		大阪南港ATC	糺の森
9月	1	今井町	北港ヨットハーバー	円山公園	三十三間堂	比良山	箕面公園	宇治周辺
	2				布引ハーブ園	山田池公園	仁和寺	
10月	1	高槻農大	大原三千院		梅田駅周辺	祇園周辺	メリケンパーク	明石大橋
	2	王子公園					南禅寺	桜ノ宮泉布観
	3							串本・勝浦
11月	1	永観堂	猿沢の池	京都植物園	信州	四国吉野川	御堂筋	神戸北野町
	2	京都植物園	坂本	しまなみ海道	宇治公園	あいあいパーク	奥三河	談山神社
	3	丹波篠山	恩原湖					
12月	1	我孫子車庫	産寧坂	奈良公園	四天王寺	御堂筋	奈良公園	宝ヶ池
	2	大山崎	尻無川	嵯峨野	神戸東公園		服部緑地公園	OBP 界限

絵画部の歩み—写生旅行と写生会活動・その3 (15周年以降)

：写生旅行

月	週	2004年(H16)	2005年(H17)	2006年(H18)	2007年(H19)	2008年(H20)	2009年(H21)	2010年(H22)
1月	2	相国寺	灘・魚崎郷	松花堂	天王寺公園	姫路城公園	八幡安居橋	祇園・八坂
	3	人物写生						
2月	1	大阪天満宮	マキノ		京都上七軒	京都三条通	静物写生	伊吹山を描く
	2	比良山	服部緑地公園	大阪城公園	肥後橋・大江橋	大阪城梅林	万博公園	静物写生
3月	1	北野天満宮	道明寺		宝塚	万博公園	中山寺	京都御苑(梅林)
	2	中書島	奈良公園	ハーバーランド	山野辺の道	神戸嶋上岸壁	大阪城公園	
4月	1	山科疎水	清水寺		半木の道	夙川公園	私市植物園	
	2		止々呂美	藤田邸公園	八幡の背割り	摂津峡公園	八幡の背割り	大山崎山荘
5月	1	花博記念公園	大王崎	大山崎山荘	淀屋橋	尾道	出石・城崎	答志島
	2	摂津峡	大東市水路	鞆の浦	日生	京都鴨川	中書島界限	勝龍寺
	3	舞鶴						
6月	1	天保山	武田尾	彦根城	京都御所	長居植物園	宇治川周辺	今井町
	2	平野杭全	天王寺公園	万博公園	富田林	阿波座周辺		斑鳩の里
7月	1	高瀬川	堺市出島			奈良公園		祇園巽橋
	2	坂本	大原の里	京田辺同志社		アメリカ村		
8月	1	人物写生	人物写生	人物写生	人物写生	人物写生		静物写生
	2	ポートアイランド	鞍馬	私市植物園	藤田邸公園	高槻城址公園	人物写生	人物写生
9月	1	日画展見学	延暦寺		日画展見学	塩屋漁港	日画展見学	日画展見学
	2	嵐山	尻無川		秋篠寺	明石城公園	梅小路機関車館	
10月	1	大山崎	笹部	笹部の里山	嵐山			交野市界限
	2	奈良西ノ京	三十三間堂		京大農場	長岡天満宮		
	3				富士五湖			
11月	1	大山・蒜山	郡上・白川郷	夕陽丘	当麻寺	美山	安治川周辺	嵐山
	2	祇園巽橋	下鴨神社	妻籠&高遠	円山公園	宝ヶ池	龍野・高梁	若狭・福井
	3							
12月	1	淀屋橋・御堂筋	淀屋橋	北浜周辺	鶴見緑地公園	北千里三色彩道	池田市界限	鶴見緑地公園
	2	今井町	近江八幡		大山崎山荘	中ノ島周辺	あいあいパーク	坂本

写真で綴る絵画部の歩み

秋の写生旅行・開田高原(1995. 11)



秋の写生旅行・白川郷(1996. 10)



春の写生旅行・志摩半島(1997. 5)



秋の写生旅行・奥津、恩原湖(1998. 11)



15周年記念誌・森下社長へ贈呈(1998. 10)



秋の写生旅行・内子町(1999. 11)



秋の写生旅行・長野県大岡村(2000. 11)



第18回絵画部展・門真市民文化会館(2001.10)



秋の写生旅行・脇町(2001.11)



秋の写生旅行・奥三河地方(2002. 11)



第2回絵画教室修了式・松心会館(2003. 1)



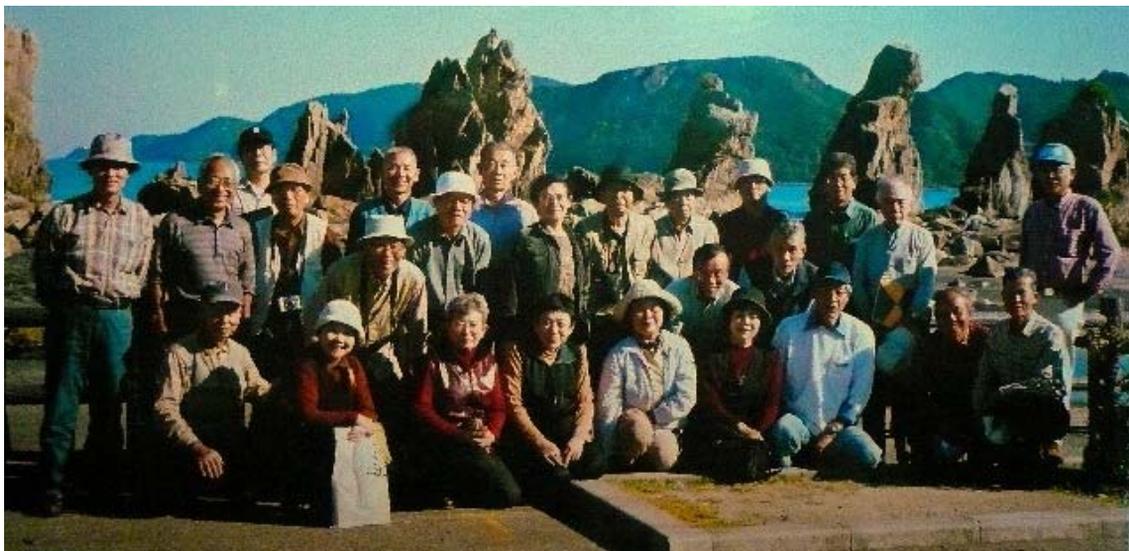
夜の講評会・青連寺湖(2003. 5)



廣瀬先生ご満悦・松心会館での忘年会(2003. 12)



秋の写生旅行・南紀(2003. 10)



第20回 絵画部展・門真市民文化会館(2003. 10)



第51回 日曜画家展・京都市美術館別館 (2004. 9)



OBP 文化祭出展会場 (2004. 11)



忘年会・松心会館 (2004. 12)



第21回 絵画部展・門真市民文化会館 (2004. 12)



女性グループで団体奨励賞受賞・日曜画家展(2005. 9)



絵画部展オープニングパーティ(2005. 10)



山本昌平さん松心会館へ(2005. 12)



第22回 絵画部展・門真市民文化会館(2005. 10)



春の写生旅行・鞆の浦(2006. 5)



プロの先生による講評会(2006. 10)



団体奨励賞受賞・日曜画家展(2006. 9)



第23回 絵画部展・門真市民文化会館(2006. 10)



春の写生旅行・日生(2007. 5)



団体奨励賞受賞・日曜画家展(2007. 9)



秋の写生旅行・富士五湖(2007. 11)



人物写生会・松心会館(2008. 8)



第3回 絵画教室スタート(2008. 10)



第55回 日曜画家展・京都市美術館別館(2008. 8)



第25回 絵画部展・門真市民文化会館(2008. 10)



第3回 絵画教室修了式・松心会館(2009.3)



春の写生旅行・城崎温泉(2009.5)

秋の写生会・美山研修会(2009.11)



春の写生旅行・城崎温泉(2009.5)



日曜画家展での廣瀬先生の挨拶(2009. 9)



絵画部展での講評会(2009. 10)



第56回 日曜画家展・京都市美術館別館(2009. 9)



第26回 絵画部展・門真市民文化会館(2009. 10)



日曜画家展・審査委員の講評会(2010. 9)



絵画部展打上会 久保さんの締め(2010. 10)



春の写生旅行・伊勢答志島(2010. 5)



第57回 日曜画家展・京都市美術館別館(2010. 9)



第27回 絵画部展・門真市民文化会館(2010.10)



秋の写生旅行・あわら温泉(2010.11)



さわやか枚方館での廣瀬先生(右：94歳)(2010.11)



忘年会後のカラオケ・松心会館(2010.12)



忘年会・松心会館中庭にて(2010. 12)



新年定例会での講評会(2011. 1)



写生会・神戸北野(2011. 6)



春の写生旅行・倉敷(2011. 5)



会員作品

- ・以下のページには絵画部会員の作品を収録しています。
- ・各人ごとに1ページを割り当てています。
- ・作品の絵は会員各人が選定し、コメントをつけたものです。

廣瀬 禮男



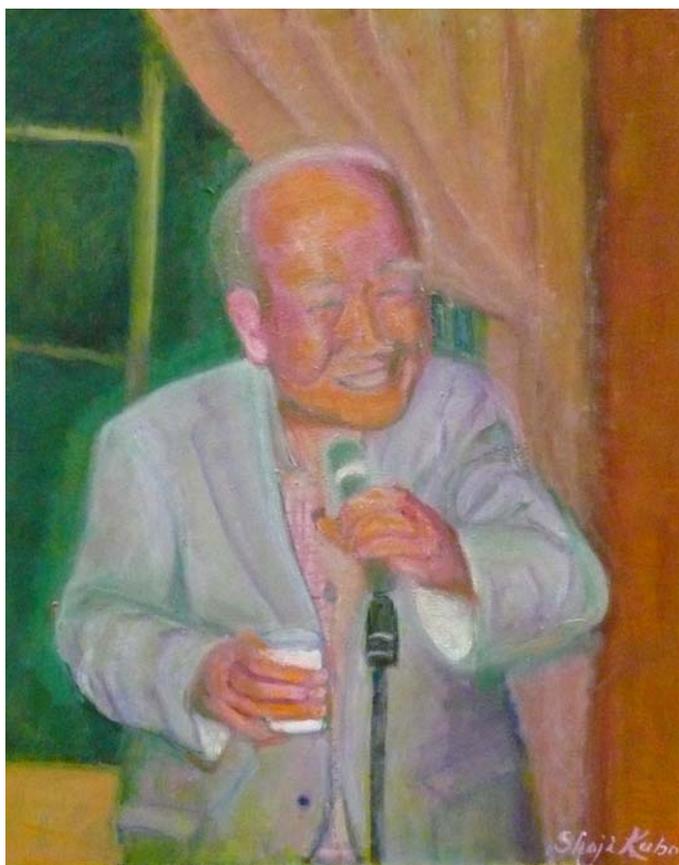
「花籠のある静物」 F 4 水彩
2009年9月に怪我で入院する前の93歳の時の絵である。
以来筆を持って絵が描けないのが残念である。

「伊那谷早春」 F 1 2 油彩

南アルプスから流れ出る伊那川の冷たい水で大根を洗う女性の姿が印象的であった。



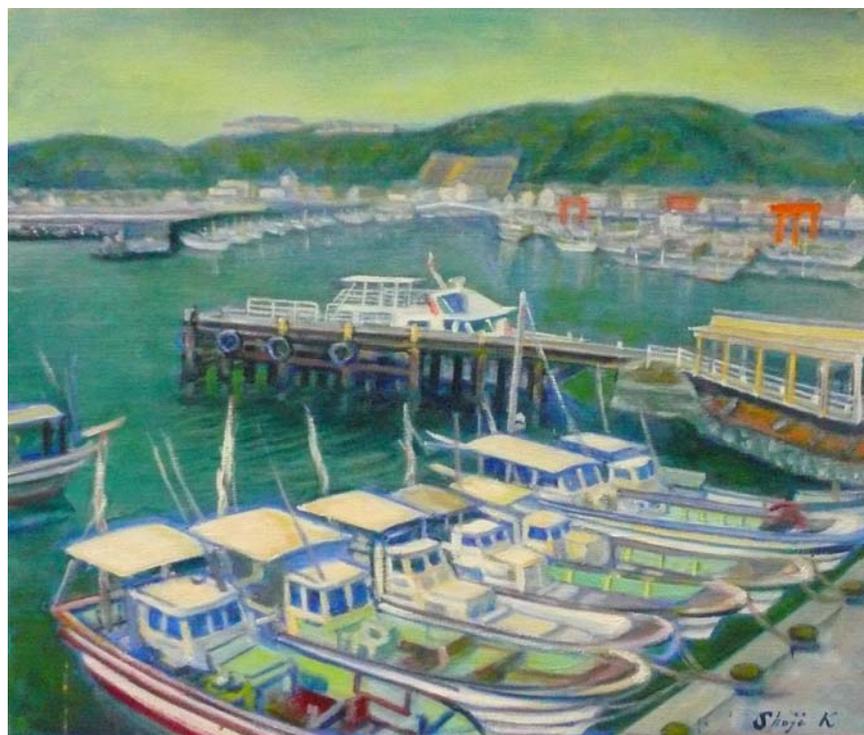
久保 正次



「乾杯の音頭・・・」 F15 油彩
松下・福岡営業所OB会で乾杯の音頭をとる勇姿！全国各地からの懐かしい顔が並んでいて、晴れがましい限り。

「青い海・白い船」 F20 油彩

和歌山市近郊の加太港は鄙びた港であるが、北方に位置する友が島への連絡港として栄えている。時は5月、陽光は降りそそいでいた。



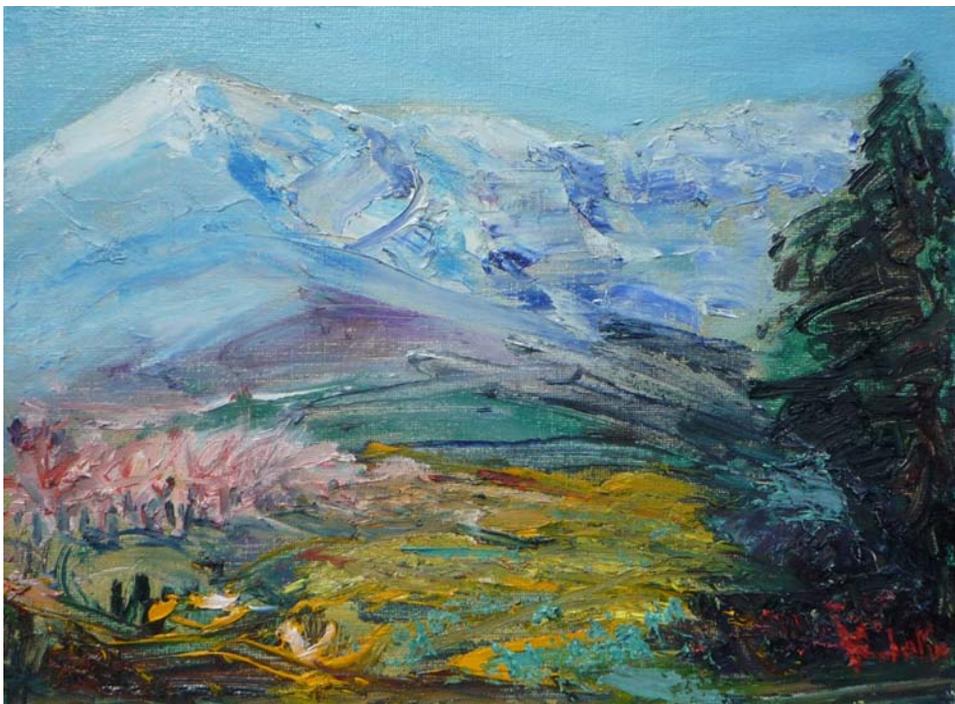
井奥 勝郎



「花」 F 4 油彩
実際の花を見て描いたものではありません。想像の花で幻です。卒寿にもなるとすべてアバウトで、写実から抽象への逃避です。

「風景」 F 4 油彩

絵に音楽を入れたいと思いました。音楽には長調と短調がありますが、これは長調です。実際にはこんな風景の所はありませんが。



平井 克己

「寂寥」 F100 油彩

同窓会出席直後の作品。あの枯れた葉っぱはF君、下向きのは病臥中のO君、沈んでいるのはT君、思いは深く西の空を仰ぎ見る。



「溪谷の壁」 F100 油彩

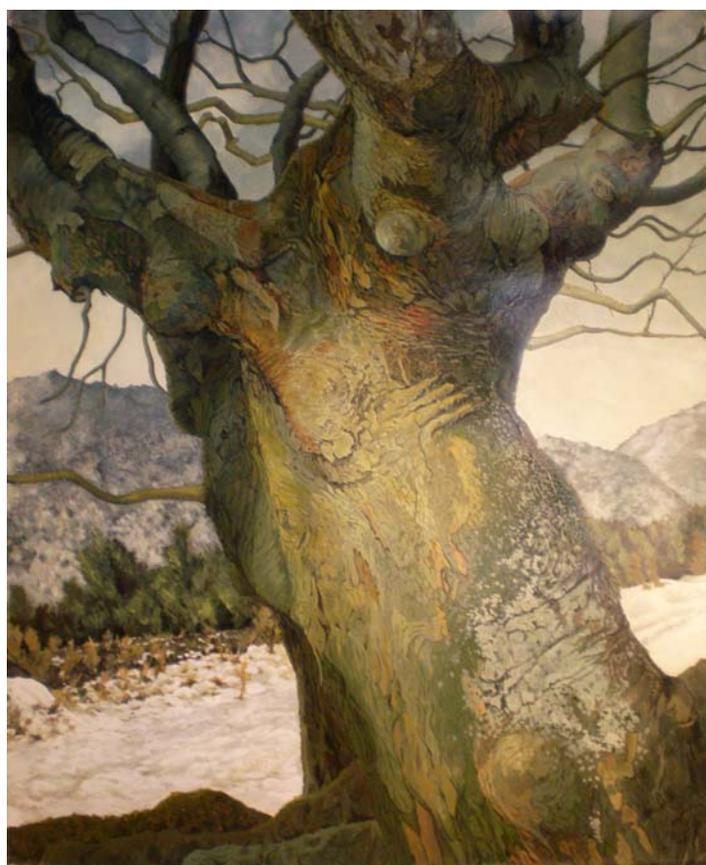
岡山神庭の滝からの帰路、偶然に目にした溪谷の壁、凄い感動に胸は高鳴る。幾星霜風雪に耐え薄日に映える岩肌が今も目に浮かぶ。



磯野 二郎

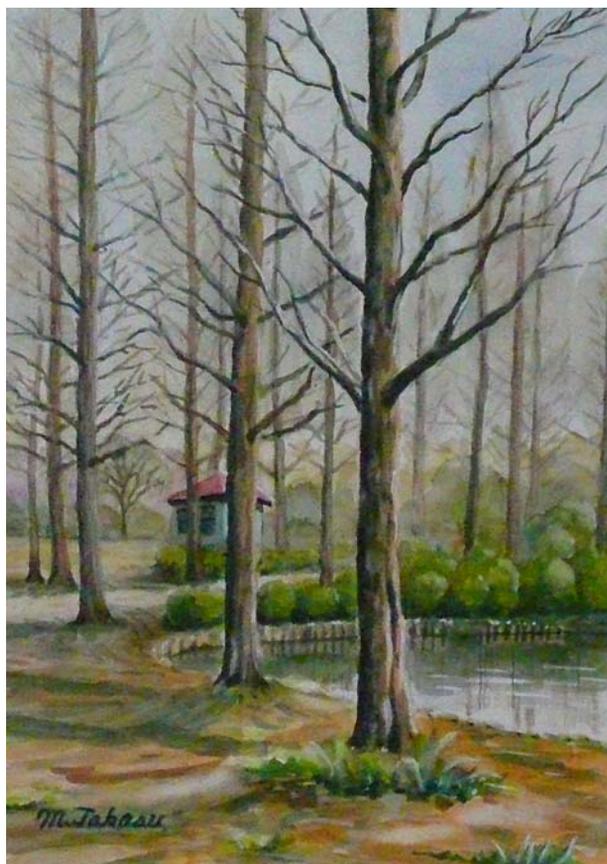


「帝釈寺のヤマモモ」 F1000 水彩
06年一水会入選作品。箕面勝尾寺参道沿いの古刹にある樹齢
三百年の巨樹。関西水彩画会、研水会出品を含め8作品中の1
点。

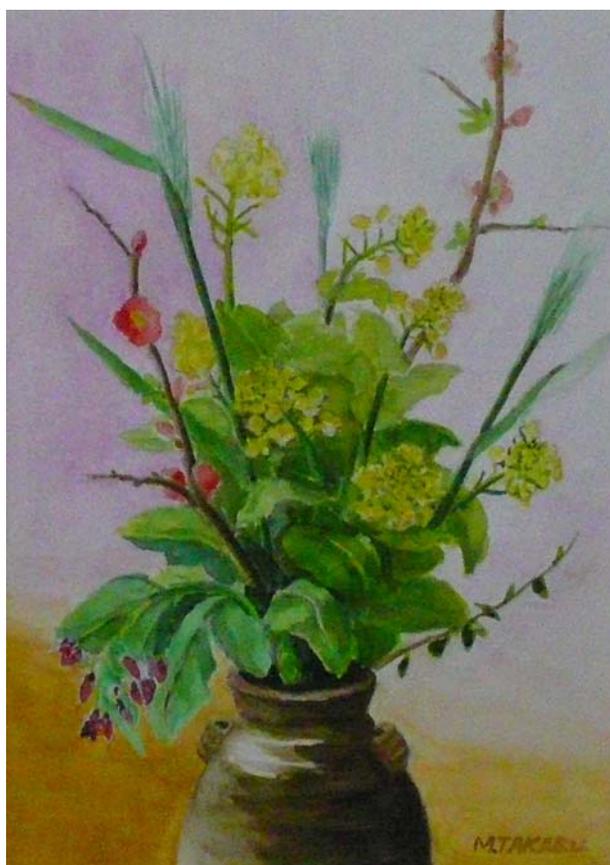


「彦根のケヤキ」 F1000 水彩
09年一水会入選作品。滋賀彦根城をのぞむ芹川土堤にある樹
齢四百年の巨樹。他展出品を含め9作品のうちの1点。

高須 典大



「春を待つ」 F4 水彩
万博公園でメタセコイヤの林を歩く。芽は膨らみ始めている。均整の取れたその姿を望見し、厳冬に耐え抜いた孤高の姿を思いやる。

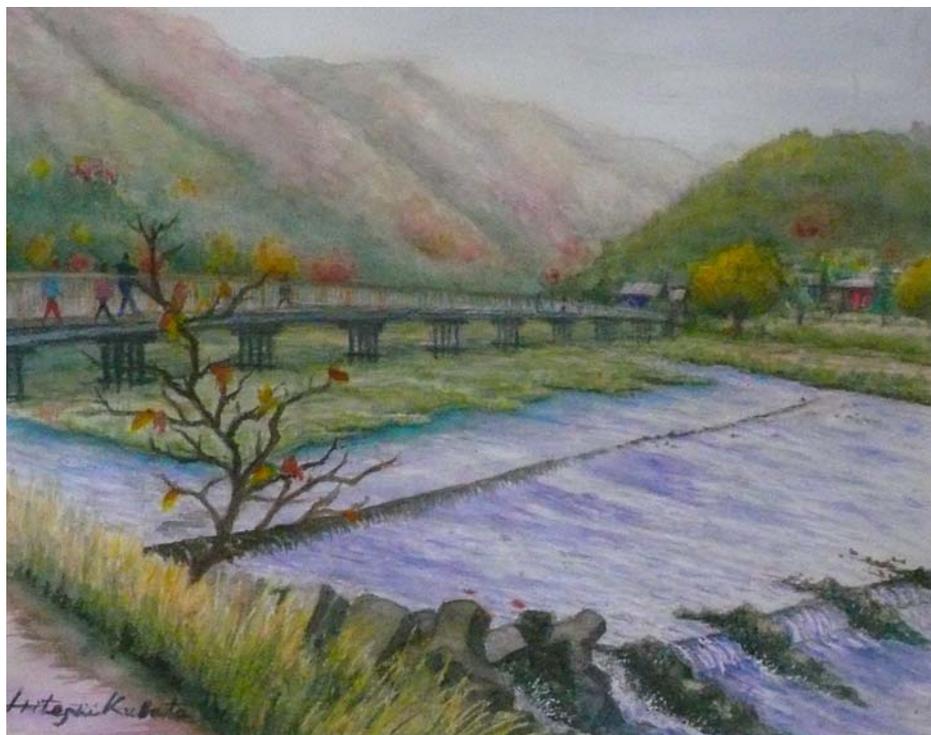


「書齋に春が来た」 F4 水彩
畑の片隅で見捨てられていた菜種やぼけが春の光を受けそれぞれが生きる事を楽しんでいる。誰も彼ものびのびと生きてくれ。

窪田 均

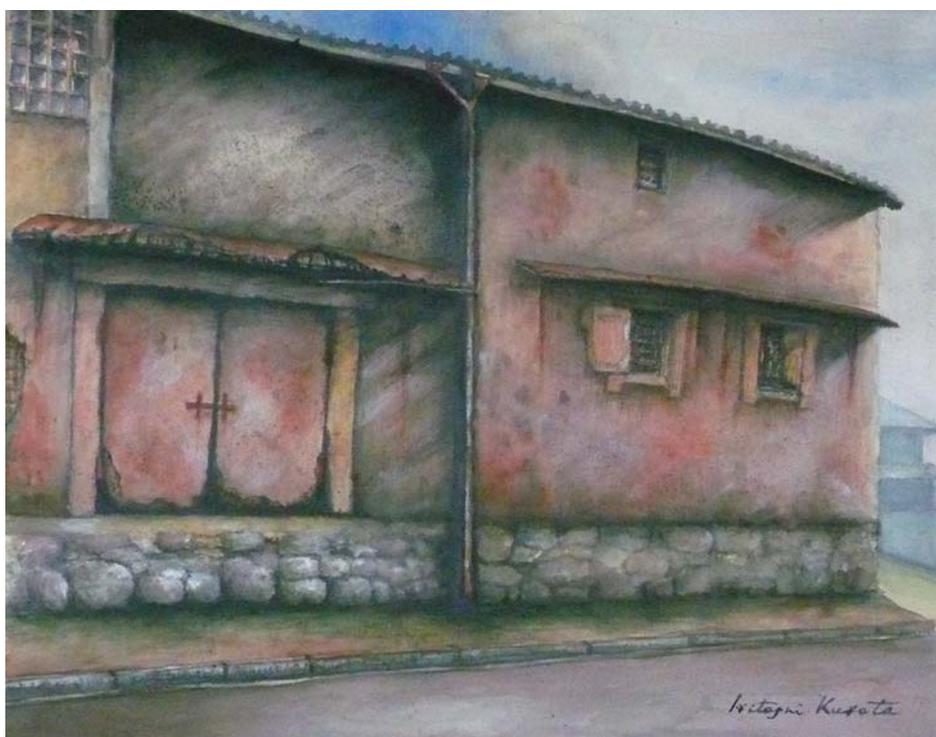
「秋の気配」 F 8 水彩

錦秋の頃は観光客で賑わう嵐山も11月初旬はまだ静かで落ち着いた表情を見せている。桂川の清流を強調した構図で描いてみた。

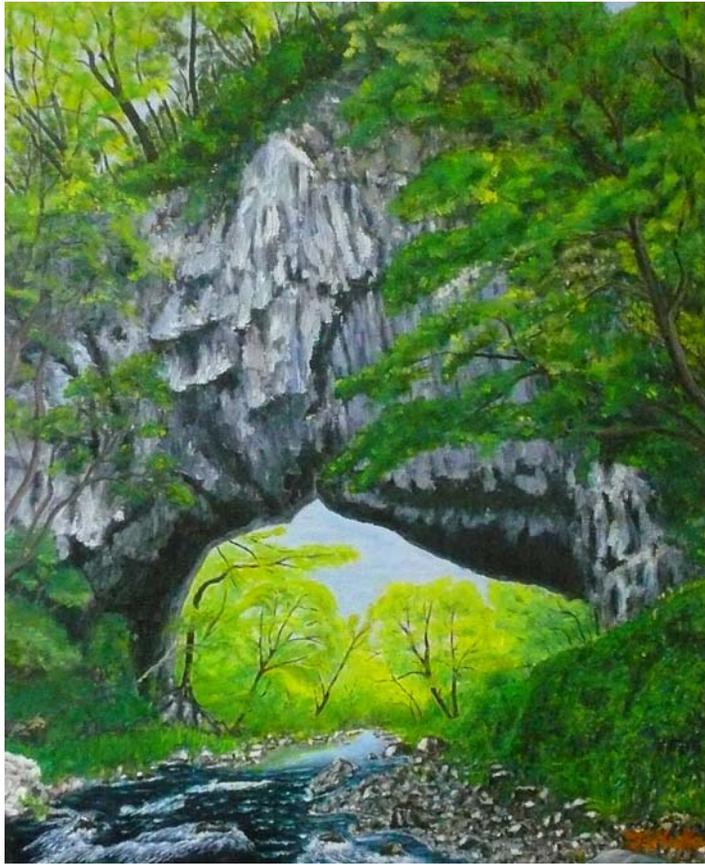


「出石の酒蔵」 P 15 水彩

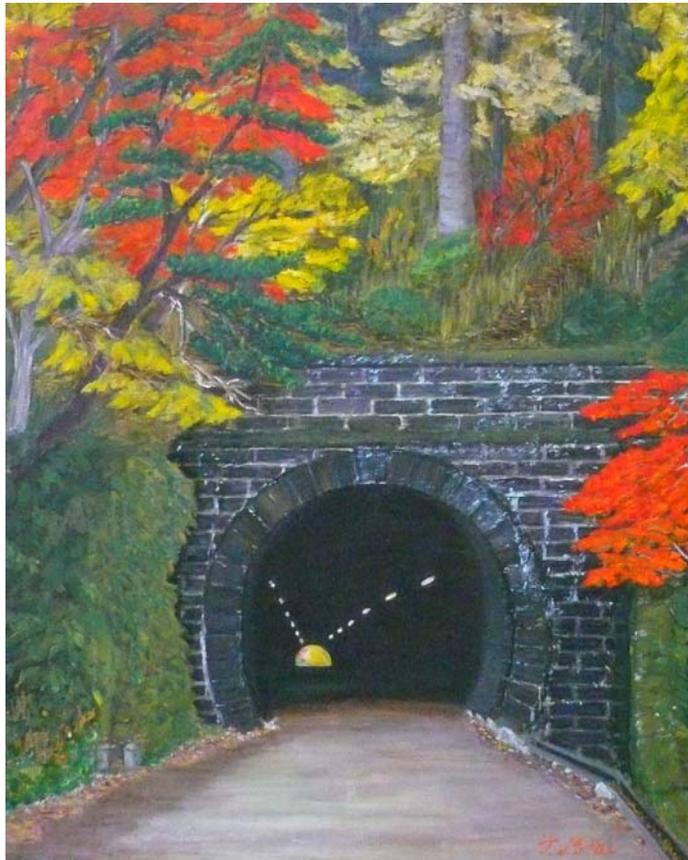
江戸初期に建てられたこの蔵は400年の風雪に曝され古色蒼然としている。色々な画材を使っての水彩画である。



向井 常信



「帝釈峡の奇観」 F20 油彩
初夏の帝釈峡を訪ねる 大昔川の流れが岩を浸食して出来た、自然の巨大な岩の橋の奇観に圧倒される。



「紅葉とトンネル」 F15 油彩
旧友三人で伊豆下田から修善寺に抜ける途中天城峠の旧トンネルに立ち寄り、訪れる人も少なく紅葉が素晴らしかった。

小池 貞徳

「村はずれ」 F10 油彩

茅葺きの里「在原」(滋賀マキノ)の村落のはずれで、柔らかい春の日差しの中、ゆっくりと時がながれて行く日本の原風景を描いた。



「煙突の見える風景」 F10 油彩

陶の里市之倉(多治見市)の村落で、役目を終えた美濃焼きの窯跡の煙突が、秋の陽を受けてひっそりと立っている風景を描いた。



三木 茂

「コペンハーゲンの運河」 F 3 0 油彩

05年春 旧制中学1年以來の友人夫妻と家内、私4人で北歐3ヶ国を巡る旅の途中デンマークの港を散歩した時の思い出。



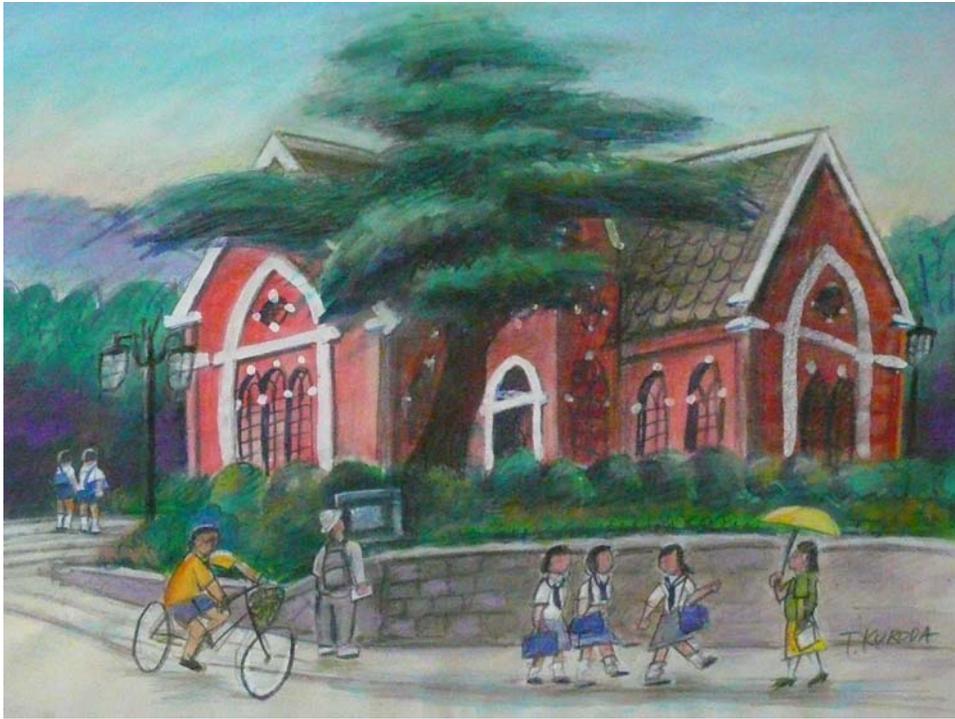
「白川郷合掌造の家」 F 1 0 油彩

まだ 独身の頃岳友2人と白山登山の帰途に立ち寄って以来、家族とも、又絵画部のスケッチ旅行でも、何度訪れても印象深い所。



黒田 友宏

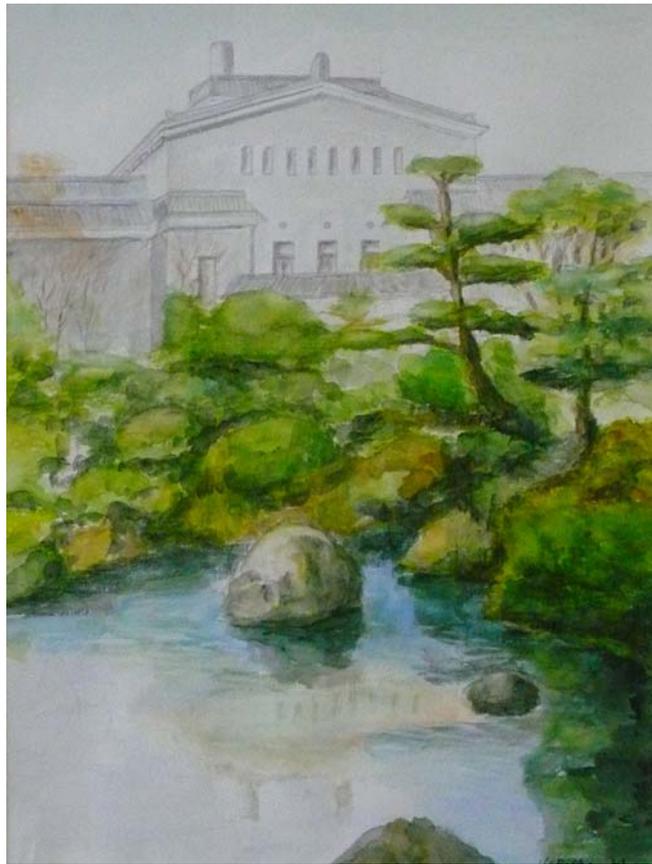
「王子市民ギャラリー」 F 6 水彩と色エンピツ
絵画部写生会でのスケッチです。リアリティを出すため人物をあちこちに配しました。ポーズ、位置などに苦心しました。



「伊勢波切漁港にて」 F 4 色エンピツとパステル
岸壁の梯子をのぼる漁師さんを見かけ、これは面白いと咄嗟にスケッチ。勢いに乗って早描きしたので動きが出たと思います。



森林 寛



「美術館と慶沢園」 F 6 水彩
早春の慶沢園と太陽光発電設備を入れた美術館として今後非常に楽しみなものがあると思われる。

「二月堂に向う表参道」 F 2 0 水彩
色の変化の少ない石の階段で遠近法に挑戦しました。



遠田 人明



「童女」 F 4 水彩
2004年の小品展のために、近江八幡に住む孫娘を描きました。岸田劉生画伯の「麗子像」の絵をイメージしていました。

「島上岸壁（神戸港）」 F 15 水彩

2008年に、浮きドックの前の船を写生しました。丸目先生が写真を撮って下さったので、それを前景にして仕上げました。



西本 和幸

「龍馬の宿」 F 8 水彩

幕末に生まれ、日本の将来と国民の幸せを願って活躍した坂本龍馬の強烈な生涯と、志半ばで兇刃に倒れた無念さを表そうと描いてみた。

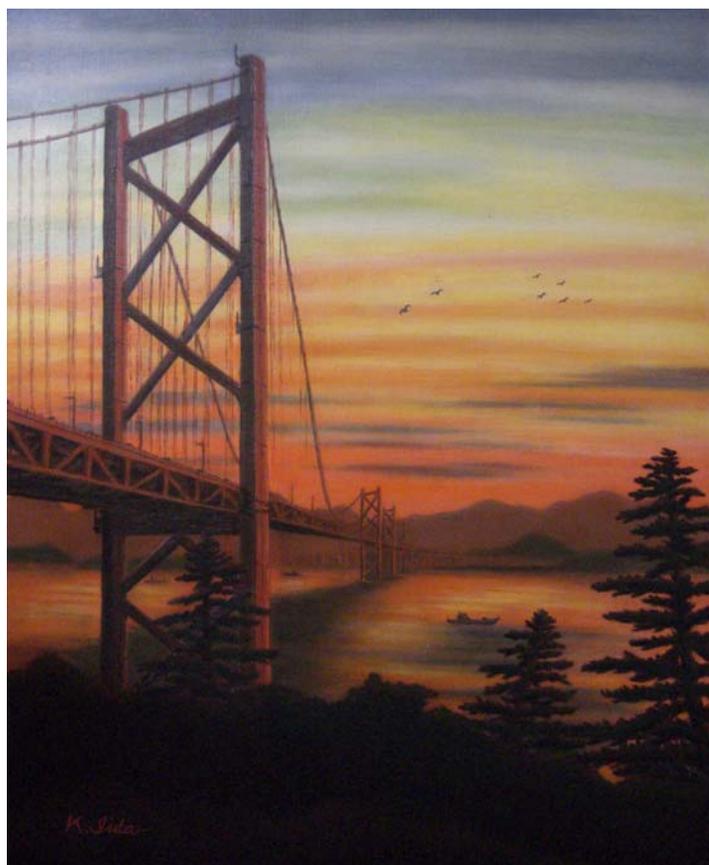


「秋の奥入瀬溪谷」 F 30 油彩

奥入瀬溪谷の真髄は秋、時間から解放されて溪流に沿って歩き、激しく流れる水の音と紅葉、黄葉とのハーモニーに暫し酔いしれる。



飯田 宏治



「黄昏の大橋」 F30 油彩
時々刻々変化する夕焼けの色・・・上空から地平線に向かって
紺、青、黄緑、黄、朱、赤の色のグラデーションに惹かれトラ
イしました。

「山里の小さな駅」 F30 油彩

山里を走るローカル線の駅舎はログハウス調の小さな佇まいである。
周囲の森林とよくマッチした雰囲気表現してみたかったが・・・



丸目 安忠

「薫蓋樟（くんがいくす）」 F20 水彩

門真市にある楠、作品の神木は三島神社にある樹齢500年天然記念物の大樹。新緑の5月その生命の輝きが人に感動を与えます。



「れんこん堀」 F25 水彩

門真市南部は昔湿地帯で蓮根の栽培が盛んに行われていました 手堀りに励む人々の真剣な力強い姿を記録に残したく写生しました。



隠岐洋之助

「初夏の尻無川」 F20 水彩

絵画部の写生で、大阪の環状線の周りにこんなところがあると知り、その後も何回となく一人で写生に行きました。



「紫陽花咲く水無瀬神宮」 F20 水彩

京都郊外のこのお宮は、歴史的にも名高い社で、静かな風景を楽しむことができます。



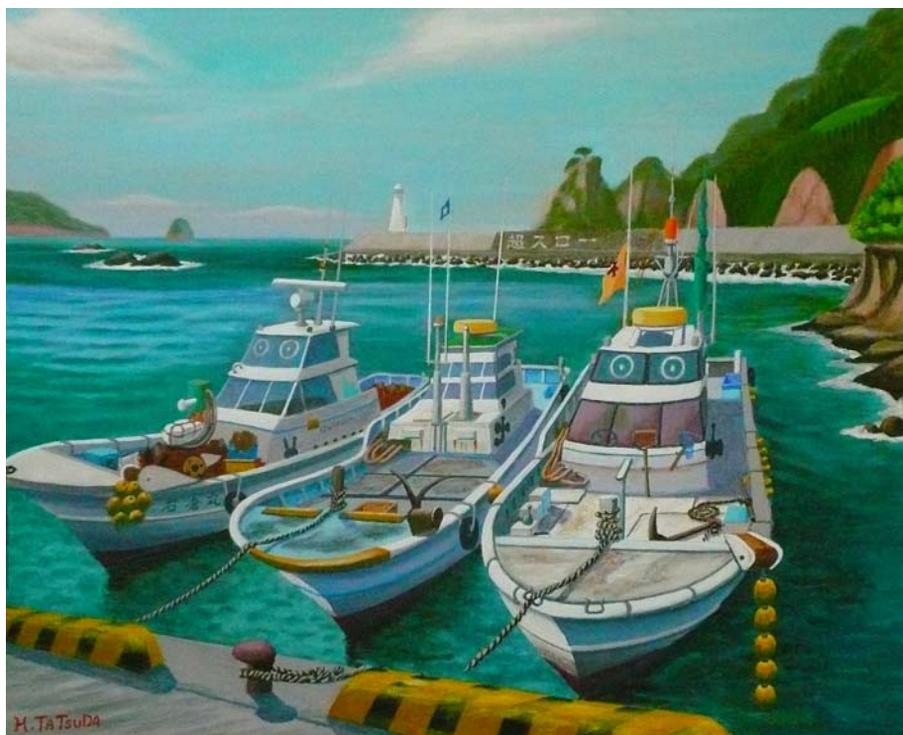
立田 英雄



「紅木蓮」 F4 アクリル
春の花、紅木蓮の大形の花の凛とした美しさ、花卉の重厚さを描きました。

「答志漁港」 F30 アクリル

この漁港の船は変わっており船体は右側に寄っています。通路は左側のみの漁船で 全てこの型になっている所が面白い。



石田 昇

「憧れのモンサンミシェル」 F30 油彩

海外作品が多くなってきた。自分も一枚と思いスケッチ集より選んで描いたフランスの旅。大きな思い出の一枚に。



「空室あり」 F30 油彩

萱島地区には多くの文化住宅があり空室が目立つ頃だった。これは絵になると思い描いた。日画展に出品受賞した平成12年の力作。



木谷 晃夫



「孫」 F 6 油彩
孫を描くと、家族中で似ているとかいないとかだけが絵の評価である。その中でも満足してもらった唯一の孫の絵である。



「花いろいろ」 F 4 油彩
松心会館の例会で何枚も静物の花を描いてきたが、今まで満足する花の絵が描き上がったことがない。これは自己満足の一枚である。

吉村 公佐



「大山崎山荘の春」 F 4 水彩
大変寒い天候でしたが午後からは快晴で暖かで、八重桜と新緑
とが綺麗な山荘の春でした。現地で描いたままの絵です。

「漁船のドック」 F 20 水彩

絵画部の写生旅行の時に鳥羽・答志島で船のお化粧直し作業中を描いた下絵が元で日曜画家展（京都）の出展作品となりました。



楠本 芳久



「鐘楼の見える路地」 F20 水彩
スペインの古都コルドバを描いた、私の気に入りの作品です。
鐘楼中心の大胆な構図と、光のさしこむ白壁と影の表現に満足。

「御所を通過して相国寺へ（京都 御所）」 F10 水彩
学生時代通り過ぎていた、懐かしい風景を描いた作品です。赤レンガ
の図書館と樹々の緑、門と土塀とジャリ道の光と影。



佐藤はじめ

「風と雲と・・・」 F 8 水彩

昨年秋の写生旅行、晩秋の三国湊の岸壁です。寒い風の中、朝日を浴びて船が揺れていました。流れる雲が印象的でした。

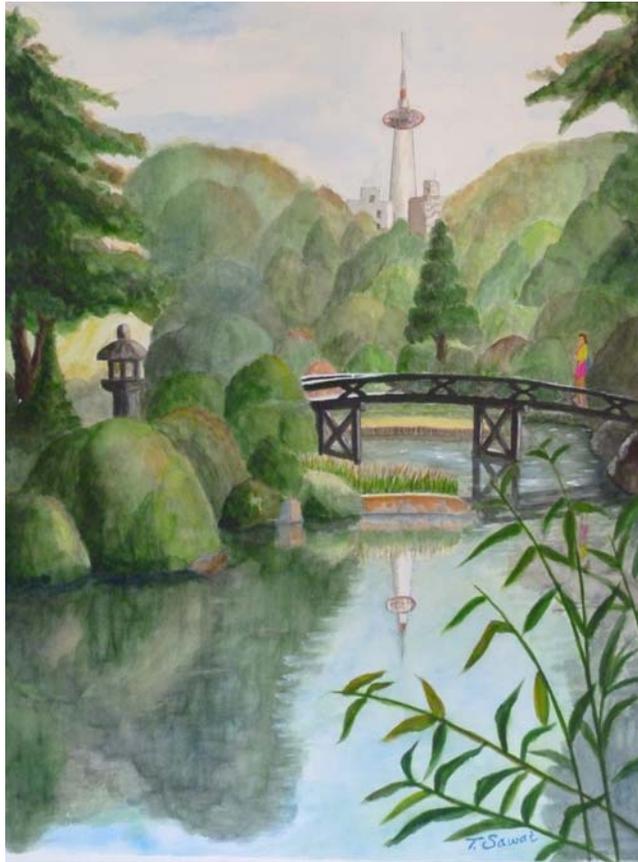


「びわ湖疏水」 B 3 水彩・ハードパステル

B 3のボードを使い、スケッチペンでデッサンしました。昨年の夏の躰上、炎天下の写生でしたので、早描きを心がけました。



澤井 忠



「**渉成園より**」 F20 水彩
「塔の見える風景」がテーマ。京都・東本願寺の別邸名勝渉成園印月池より見たものです、この庭園は何度でも訪れたい所です。

「春の楽しみ」 P20 水彩

「収穫」がテーマ。毎年5月の連休に丹波で「筍掘り」をするのが我が家の春の行事です。掘りたての筍の味は格別です。



太田 璋

「明日への力」 30号 油彩

エネルギーや電池の技術開発に取り組んできた技術者としての自らの人生、そして明日への夢を絵にした。



「本栖湖の富士」 8号 油彩

日本人の心のふるさとの一つ富士山、その富士を思いのまま、感じるままに今後も描きたい。



中尾 史郎

「水郷の里」 F 8 水彩

初めての絵画部展出展作品。写生に慣れていなかった頃で、何度も見に行ける近くの御領水郷跡を描く。

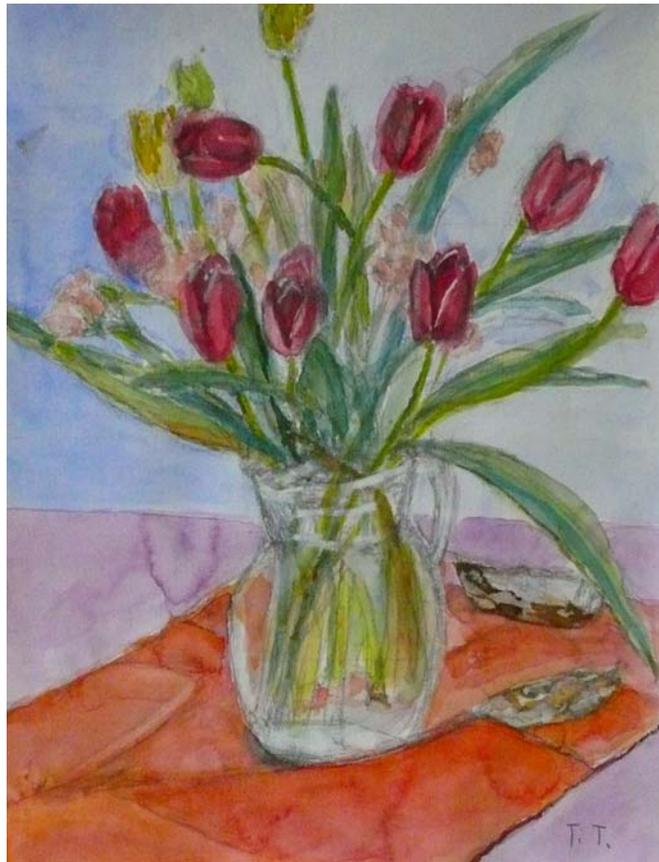


「春を待つ八幡堀」 F 20 水彩

伊吹山写生会に行くが、雪で中止。折角なので近江八幡に寄る。乗物の題材を探していた折、寂しげな遊覧船を見つけて描く。



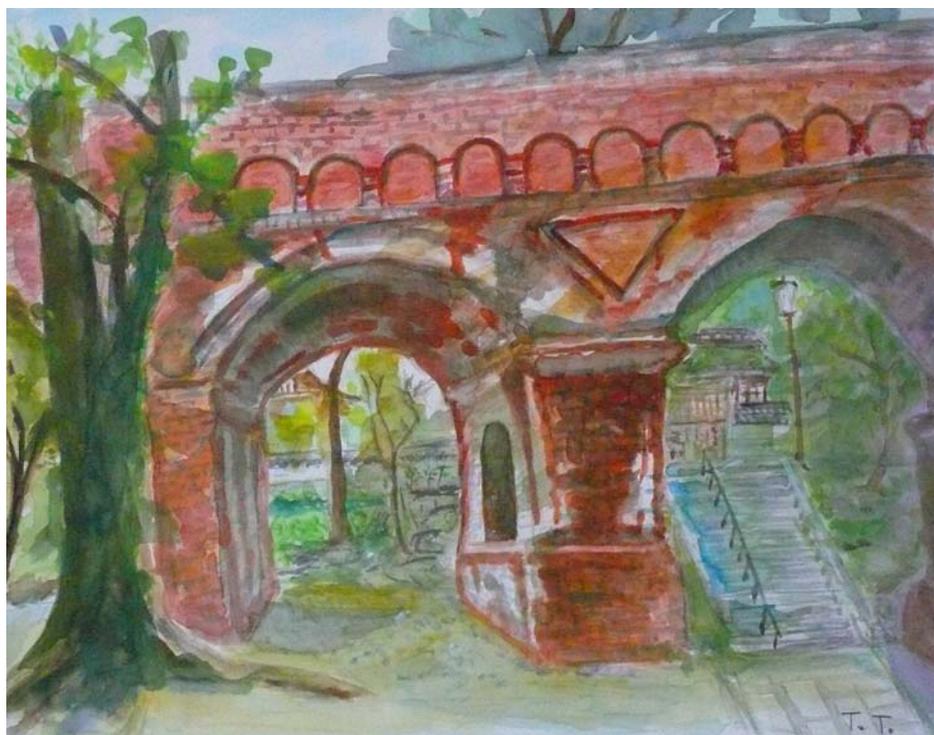
高木 照悦



「チューリップが聞いているようだ」 F6 水彩
昨年（2010年）一年間テーマとして静物画を花を中心に描くことを決めて一番のお気に入りの作品に描けた一品です。

「南禅寺水路閣風景」 F6 水彩

2003年絵画部展に初出品の作品を廣瀬先生に見て頂き、その時一筆手を加えてもらい見違える様に作品が良くなった思い出の作品です。



清水 徳治

「ポンコツ車」 F20 水彩

八幡国道1号線沿いの廃車処理工場、初のF20号作品に挑戦。作業中は危険な為断られました。早朝延べ4回押しかけて描きました。



「剣道具」 F8 水彩

松愛会絵画教室に入って1年、静物写生で剣道具に出会い、剣道の練習していた頃を懐かしく思い出し、一心不乱に描きました。



三輪 正夫



「旧森田銀行」 F6 水彩
平成22年秋の絵画部旅行で訪れた福井県三国湊で、引き込まれるように絵筆が運んだ大正ロマン漂う登録有形文化財の建物。

「ヴァイオリン」 F8 水彩

初心者向け絵画教室で学び、初めて絵画展に出展（第19回OBP文化祭）し、はからずも「佳作」となった感激の作品。



河池 孝吉

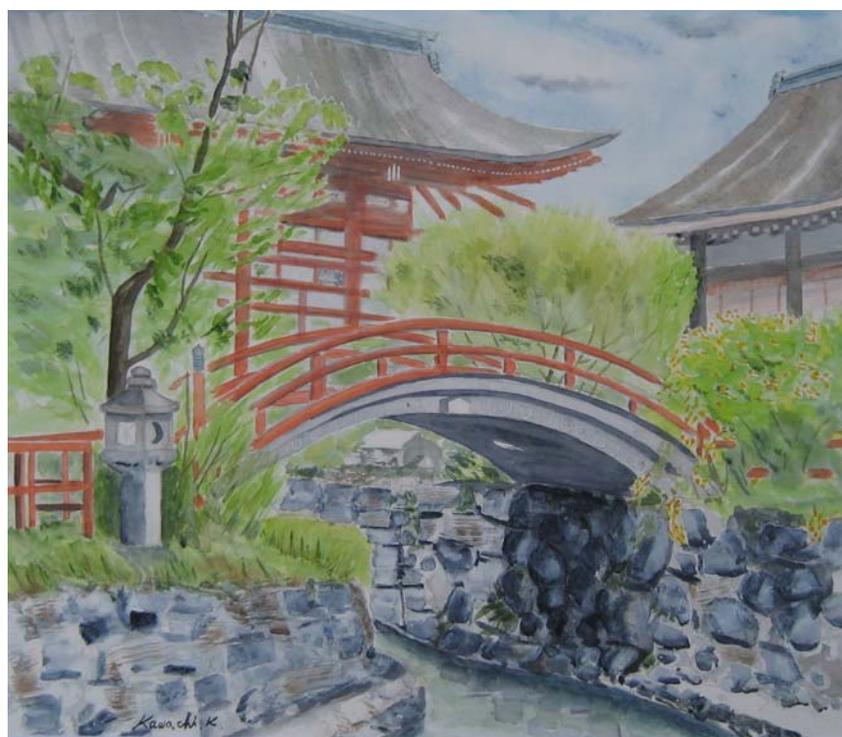
「歩道橋からの眺め」 F 8 水彩

淀屋橋界隈はこれまで数回描いた好きな場所である。スケッチ当日は、初夏が近づいており、汗を掻きながらのスケッチで大変だった。

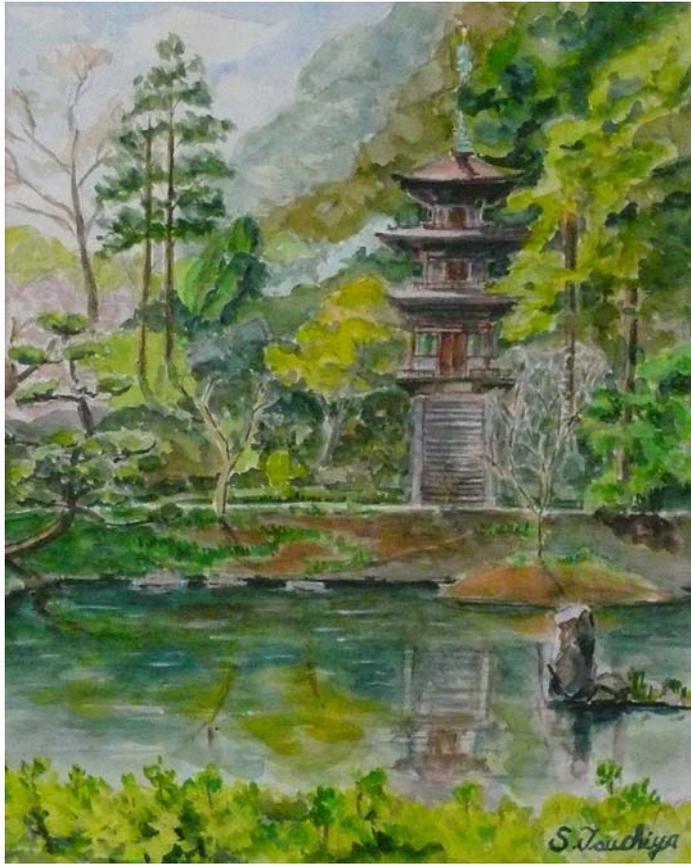


「下賀茂神社境内」 F 10 水彩

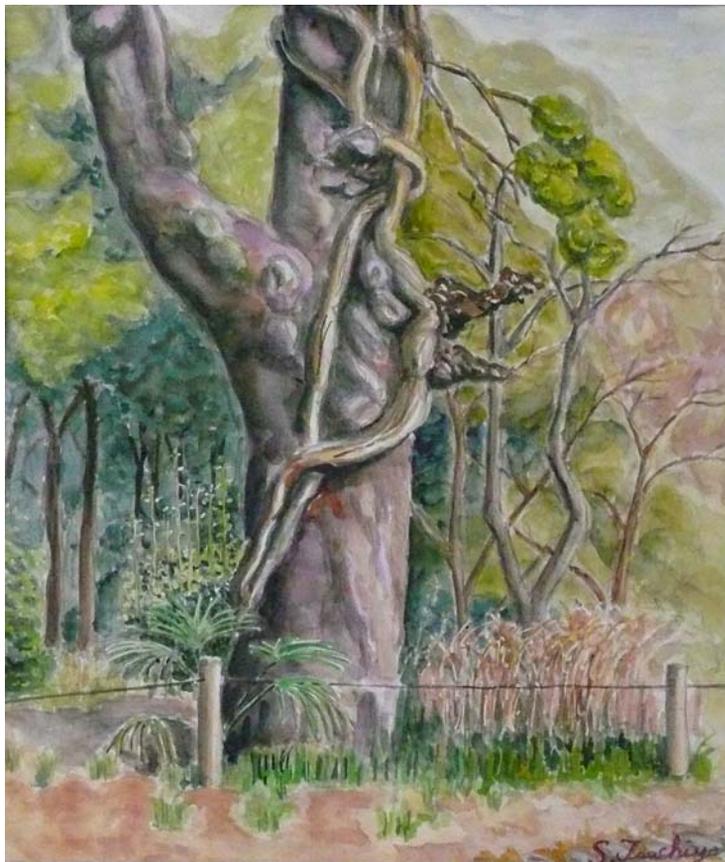
スケッチ当日は、結婚式が何組も挙式されており、新郎・新婦が、周辺で記念写真を撮るので、賑やかな雰囲気の中での写生だった。



土屋 祥二



「静寂」 F 8 水彩
初夏の浄瑠璃寺。宝池の水の表面にて平安時代からの生きづく静寂感を出すようにしました。私の絵を画く上での記念になる一枚。



「生命力」 F 10 水彩
京都植物園の大きなけやきの木に、つるの枝が共生して、いずれが主役かを競いあっているたくましく生命力を絵にしました。

和泉 英夫



「海のみちしるべ」 F20 水彩
昼夜、雨・風にさらされ沖を歩き来う船を見守り乍ら、その白く凜とした姿を描いてみました。



「枇杷の実」 F8 水彩
果物という見方でなく、生け花という感覚で、新鮮さと美しさを表現し、より引き立たせるようにバック色合いも工夫しました。

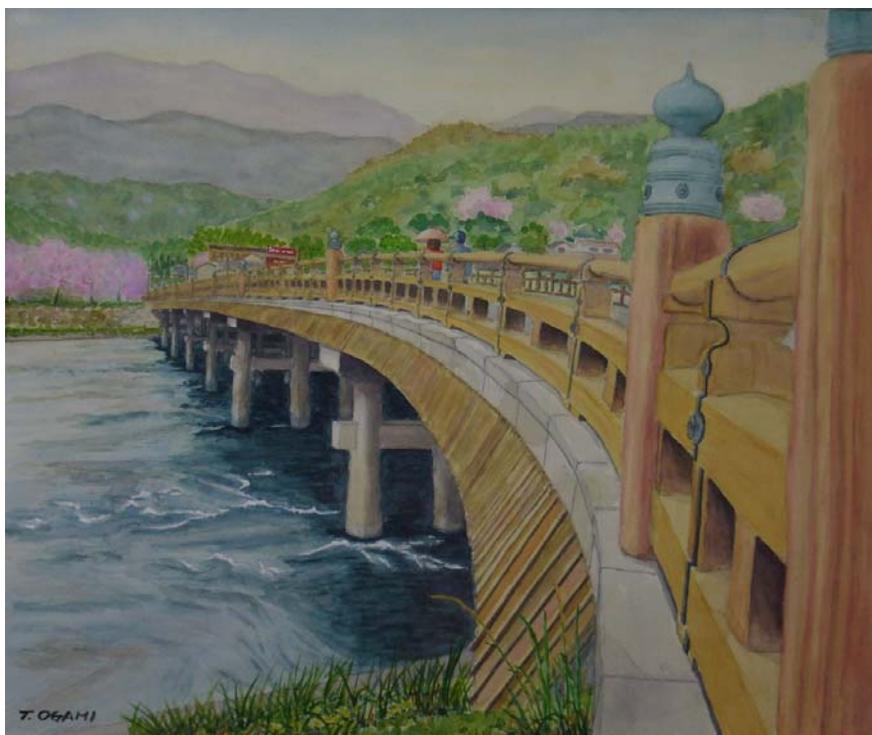
大上 徹也



「八坂の初夏」 F20 水彩
2010年 近い将来ここから電柱がなくなると聞き、古都の
雰囲気漂う未来の八坂の風景をと思い馳せ、人力車をポイン
トに描いた作品。

「春の宇治川」 F20 水彩

2007年 宇治川の春の勢いある水の流れが印象的だった。日曜画家展
への初参加と初めての大作の取り組みとで四苦八苦した思い出の作品。



月森登美雄

「ゴンドラのある風景」 F20 水彩

定年後に絵を描き始めて2年目、水の都ヴェネツィアに挑んだ習作。
風景画のイロハを初体験、苦心し完成した時の喜びは感無量！



「アドリア海の港風景」 F15 水彩

船・港等水辺のある風景は、心が安らぐ。しかし「自分で絵を描く」
となると中々大変。試行錯誤の連続で、奥深さと楽しさを実感！



木野 由夫

「潮岬灯台」 F 8 油彩

2003年秋の写生旅行にて、本州最南端の美しい灯台そして岩に砕ける波しぶきと広大な太平洋をキャンパスに描いてみました。



「秋の弓ヶ浜」 F 10 油彩

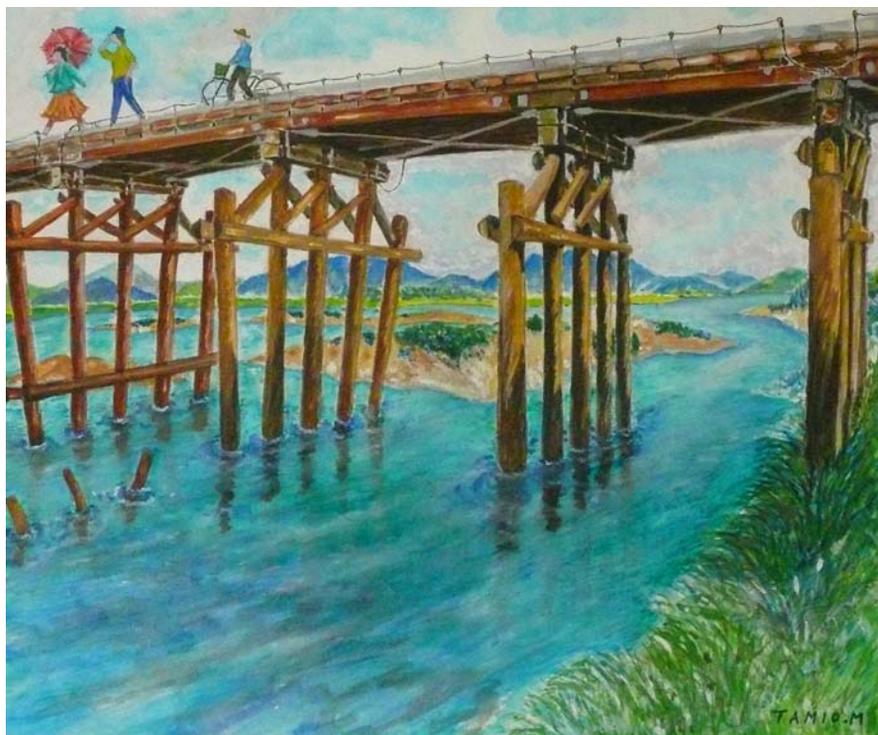
2004年秋の写生旅行にて、白い砂浜に朽ちた船小屋が目にとまり描きましたが、次に訪ねる時は砂浜の風景は変わっているでしょうね。



松尾 民雄

「八幡の流れ橋」 F10 水彩

日本最長の木造橋、一部を切り取って描いて見ましたが、ゆるやかな水流の表現がむつかしく、色をぬり重ねすぎてしまいました。



「若狭のイカ釣り漁船」 F6 水彩

瀬戸内海で育った性か漁船を眺めるのが好きで、若狭の港に係留していたイカ釣り漁船に目が止まり自分なりに描いてみました。



笹川 和正



「勝尾寺山門」 F20 パステル
2009年の日曜画家展に出展する為に描きました。テーマが
塔または大きな建物ということで右に多宝塔を入れました。

「椿の道」 F8 パステル

2011年2月初旬の京都植物園で椿に囲まれた遊歩道です。背景の
灌木はまだ新芽も出ていません。



久保田和栄

「五箇山村落のお寺、民家」 F 6 水彩

どこの角度から眺めても絵になる風景でした。旅人にとっては良い環境でした。



「白のマーガレットの花」 F 8 水彩

初めて松下記念病院へ出展してエスカレーター側面に掛けて下さって感激一ぱいのつまった作品です。



小西不三子



「友人」 F 4 油彩
親しい友人の絵を描く事は楽しい。その人の持つ明るさ、秀囲
気を出すには苦勞もありますが、喜ばれると達成感があります。

「御堂筋の秋」 F 10 油彩

毎年気候の差により紅葉度の違いは有るものの、御堂筋の紅葉は活発な車の動きに潤いを呈し、非常に美しい好きな風景です。



眞鍋 美どり



「兄弟」 F4 水彩
妙にお澄ました孫の兄とお茶目な弟のコントラストが面白くて描いてみました。後々大きくなった兄弟が微笑む事でしょう。

「挑戦」 F10 水彩

怖がりの孫は山田池の飛石で下には水が沢さんあったが挑戦したくなったのか必死で飛んだ姿に”よくやった”と感動し拍手し描きました。



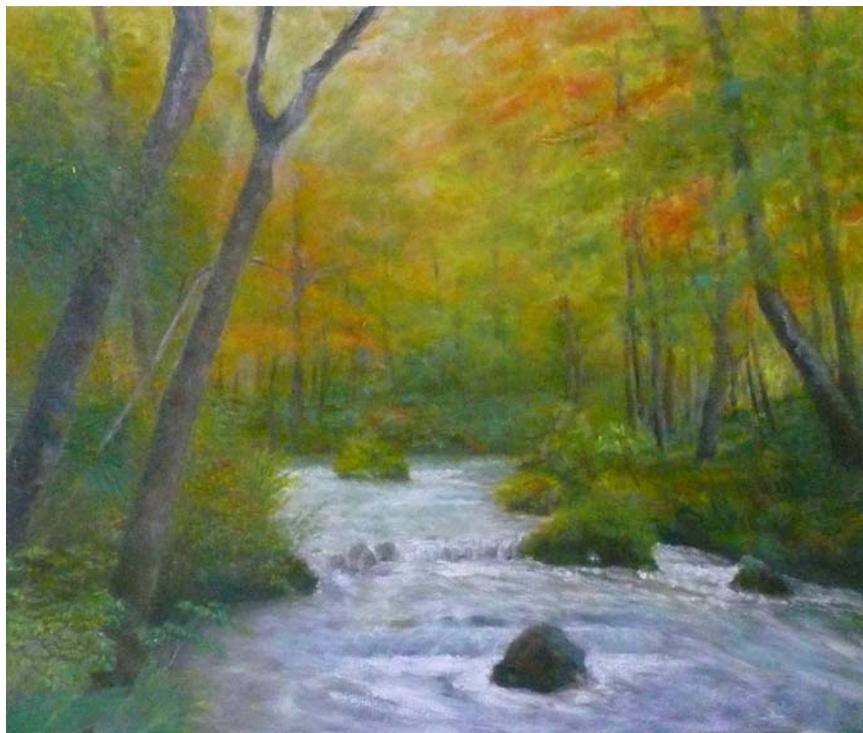
中西美佐子



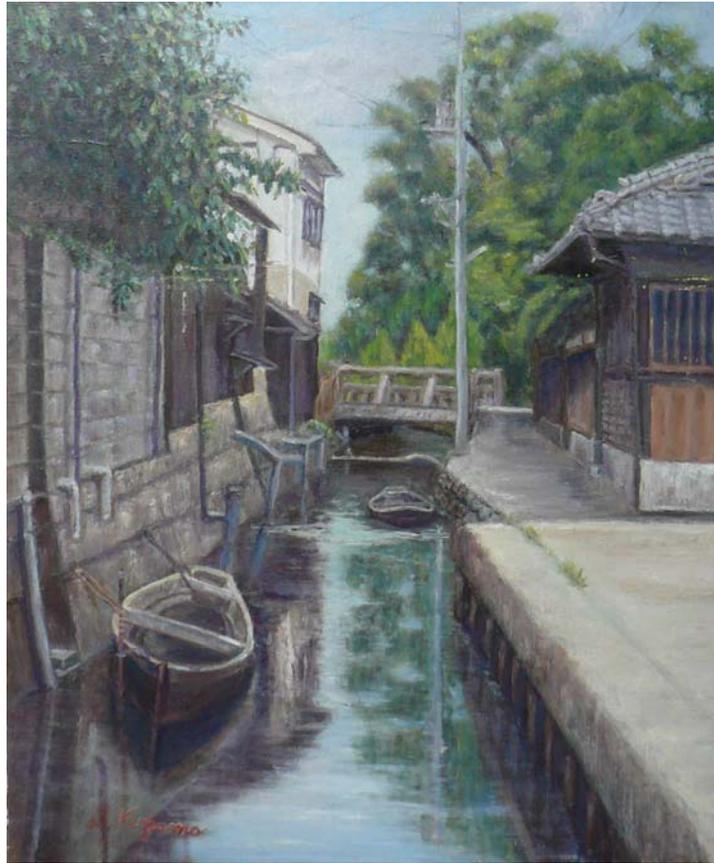
「口縄坂」 F 6 油彩
夕陽ヶ丘界限には源聖寺坂、清水坂、天神坂など情緒豊かな坂道が何本もあり、気候のよい頃にはブラリ歩きをするのも良い所です。

「奥入瀬」 F 8 油彩

奥入瀬は春もよし、秋も又よしです。先生には遠近の中にある空気を描くと教えて頂いた。色使いの難しさを痛感しつつ描いた作品です。



小山 節子



「梅雨の晴れ間」 F15 油彩
小さな川の水面に浮かぶ一艘の古びた小船、この現場に到着した時、是非一枚の絵にして見たく作品にしました。

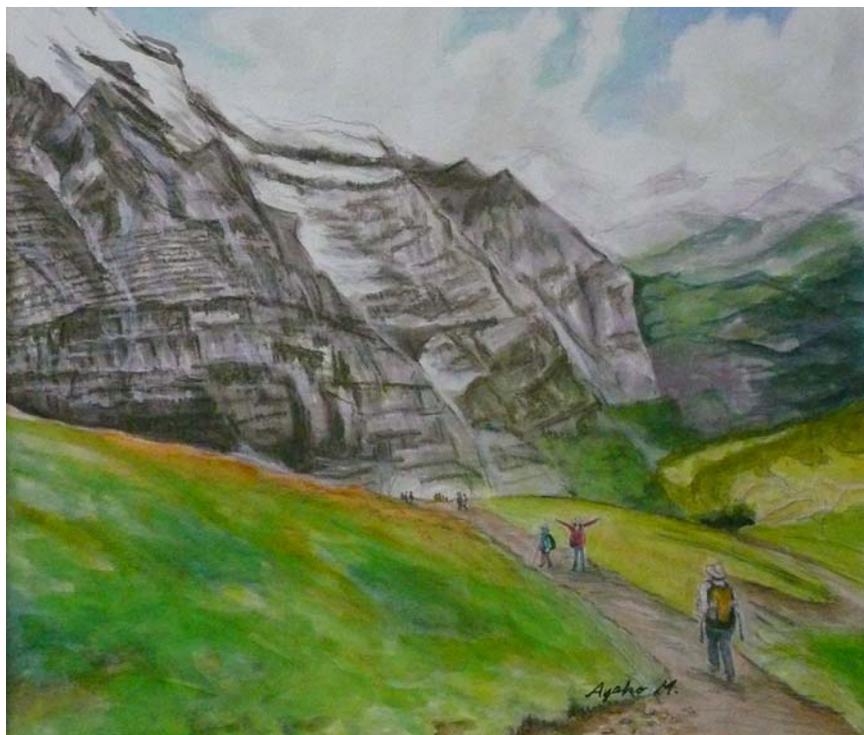


「夏目」 F10 油彩
若くて美しい女性人物を描く時モデルさんの個性を表現しようと集中して写生している時間が楽しい一刻です。

森垣 綾子

「スイスの山を歩く」 F10 水彩

21年夏、雄大なアルプスの山の景観を眺めながら、娘達とハイキングを楽しみました。好天に恵まれ素晴らしい旅でした。

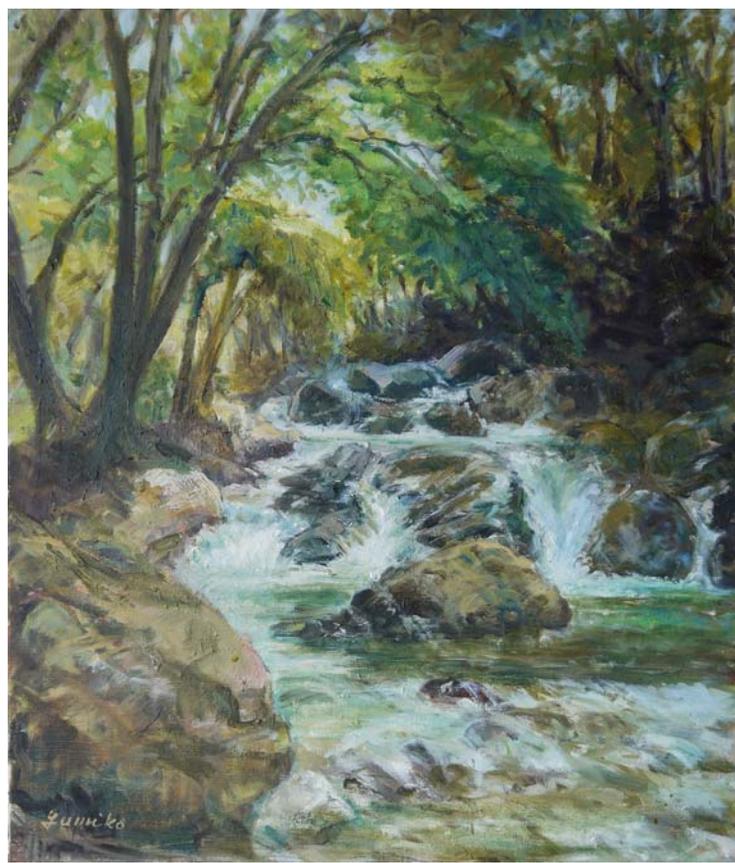


「木登り大好き」 F10 水彩

畑の横にある柿の木が丁度登り易いもので、彼等の格好の遊び場となりました。元気一杯の孫三人組です。



吉池 弓子



「溪流（摂津峡）」 F10 油彩
五月半ばの夏めく日、大阪近郊にこんな素敵な所があったなんて！新緑を映して涼風を招いている。昂ぶる気持ちを今でも思い出す。

「新緑（長居公園）」 F15 油彩

時間の経過を感じるユーカリの巨木に思わず腕を回してみたいくなる。可愛いコアラは登れるのかしら？葉がキラキラと風を通してている。



杉山 恭子



「秋海棠」 F10 油彩
住み古りた庭に毎年咲く秋海棠は私の人生の移ろいを共にした花の一つです、可憐なのか強健なのか未永く寄り添ひたい花です。

「待春のウィーン」 F10 油彩

再訪のウィーンで、今回は「雪中の狩人」を鑑賞。美術館を廻るうち、この町に何時までも居たい衝動に駆られたステファン寺院裏で。



下橋 善子

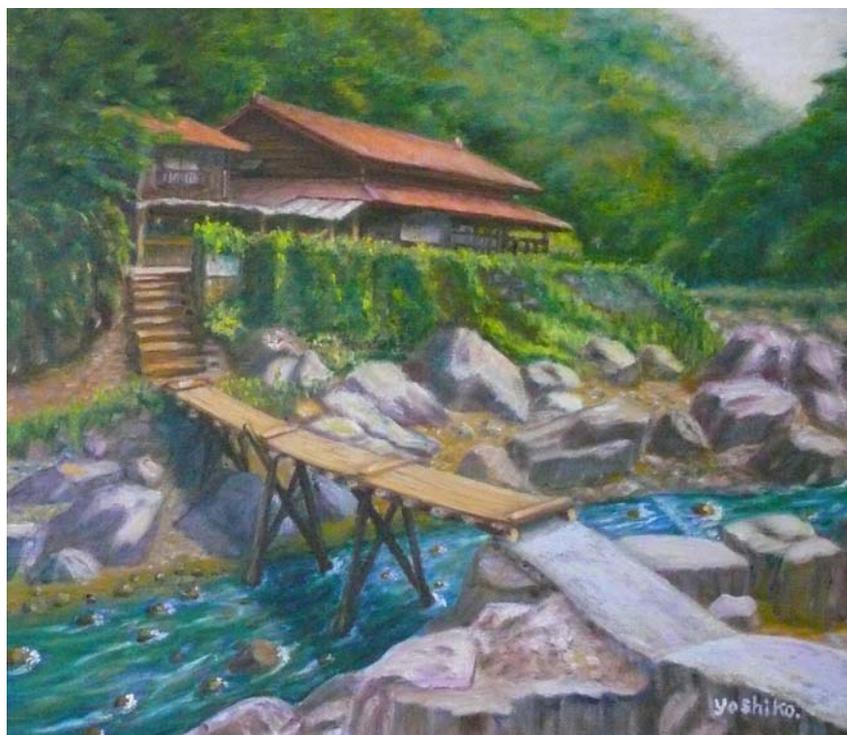
「舟めぐり」 F 2 0 油彩

かつて伏見城のお堀であった堀川端を歩き、往時の面影を巡る十石船に出会い、その当手を思い描いてみました。



「山あいの休憩所」 F 1 0 油彩

何度も歩いたことのある摂津峡。この風景の場所まで来ると「半分まで来たな〜と」ホットしたものです。



弘田 貞美



「木蓮」 F4 水彩
元氣よくやさしく楽しそうに翔く木蓮の花が、大好きです。教室で写生中にパツと咲いてビックリ、皆で笑った日を思い出します。

「静物」 F6 水彩

2009年絵画部展、初めての出品作品。見たままのびのびと、楽しく教室で完成しました。これを機に絵画にはまりました。



黒田 詔子



「帽子を被った女性」 F8 水彩
帽子を被った若い女性です。何処か気品に溢れた、若々しさが表現出来ると良いなと思いつながら筆を進めました。

「答志島の漁港」 F8 水彩

小雨が時々降る漁港です。漁船を描くのはむつかしく、先生方、先輩のご指導で描く事が出来た、喜びの一枚の絵です。



清水 環



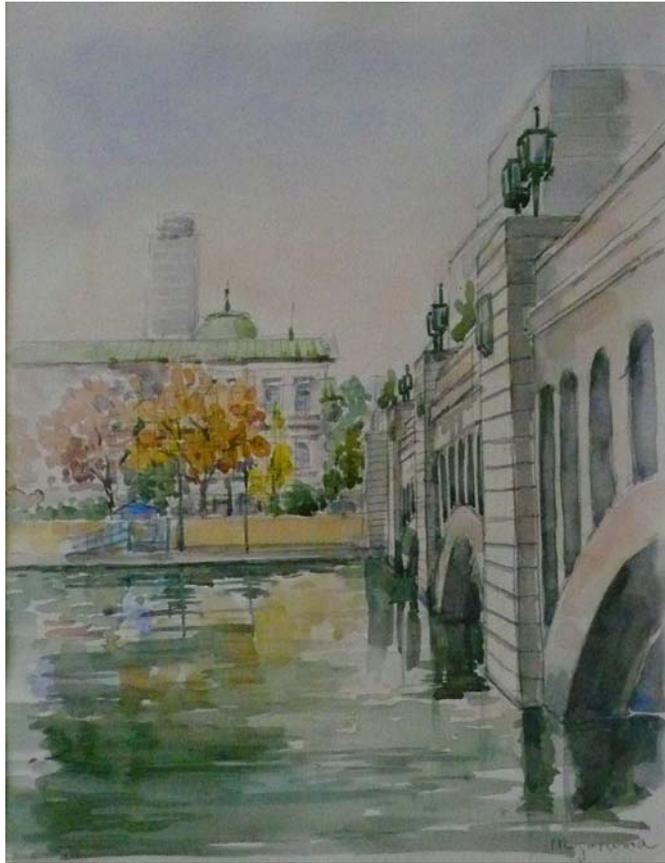
「八幡堀」 F8 水彩
6月の八幡堀は菖蒲の花が川沿いに色とりどりに咲いてとても素敵でした。梅雨の晴れ間をぬって急いで写生したのを思い出します。

「枇杷」 F8 水彩

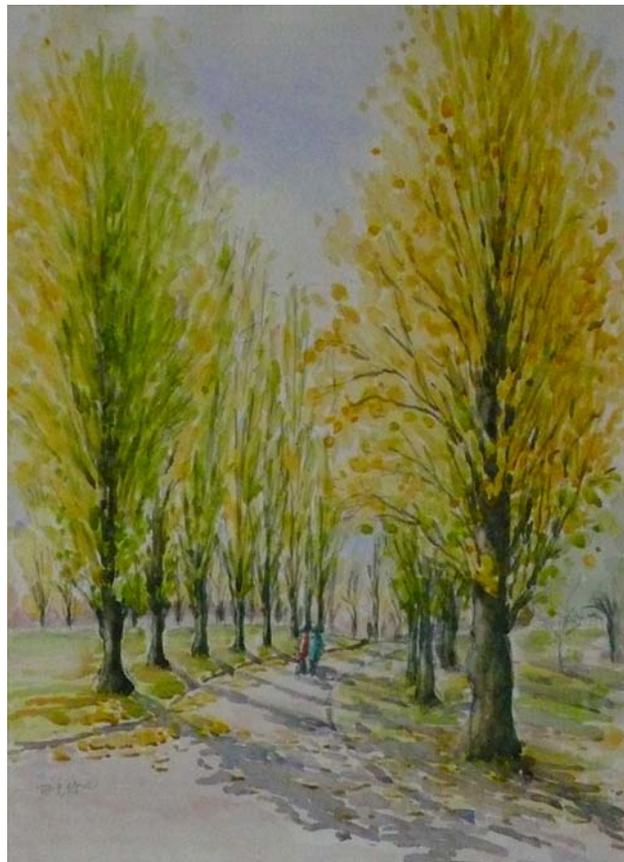
友人から、枇杷の枝が届きました。生命力のある枇杷の葉と美味しそうな実を表現できればと思い絵筆をとりました。



六車美致子



「水晶橋」 F8 水彩
ある作品展でこの場所の描かれている絵を見て、描いてみたい
と思い、さっそく行きました、向こう岸に図書館が見えていま
す。



「ポプラ並木(鶴見緑地)」 F8 水彩
写生会の2週間後に再度行ってみました、ポプラの葉が黄色く
色づいて陽ざしをあびて輝いていました。

会員名簿

2011年5月末現在

氏名	住所
廣瀬 禮男	八幡市
久保 正次	豊中市
井奥 勝郎	枚方市
平井 克己	枚方市
磯野 二郎	吹田市
高須 典大	茨木市
窪田 均	枚方市
向井 常信	枚方市
小池 貞徳	枚方市
三木 茂	茨木市
黒田 友宏	豊中市
森林 寛	門真市
遠田 人明	大阪市
西本 和幸	交野市
飯田 宏治	西宮市
丸目 安忠	門真市
隠岐洋之助	高槻市
立田 英雄	高槻市
石田 昇	寝屋川市
本田 英世 *	茨木市
木谷 晃夫	高槻市
吉村 公佐	高槻市
楠本 芳久	枚方市
佐藤はじめ	京都市
澤井 忠	枚方市
太田 璋 *	大阪市

氏名	住所
中尾 史郎	大東市
高木 照悦	高槻市
清水 徳治	交野市
三輪 正夫	長岡京市
河池 孝吉	守口市
土屋 祥二	茨木市
和泉 英夫	八幡市
大上 徹也	枚方市
月森登美雄	京都市
木野 由夫	枚方市
松尾 民雄	枚方市
笹川 和正	箕面市
久保田和栄	寝屋川市
小西不三子	寝屋川市
眞鍋美どり	寝屋川市
中西美佐子	大阪市
小山 節子	京都市
森垣 綾子	寝屋川市
吉池 弓子	大阪市
杉山 恭子	高槻市
下橋 善子	高槻市
弘田 貞美	大阪市
黒田 詔子	門真市
清水 環	交野市
六車美致子	寝屋川市

*休会中

編 集 後 記

絵画部を創設してから、本年で30周年を迎えるにあたり、その集大成として30周年記念誌を発刊することになり、編集委員7名が任命され、本格的にスタートしたのが平成22年12月末であった。

選ばれた編集委員は、編集のノウハウも乏しく全くの素人だった。まず基本スケジュール、費用の大枠、委員の業務分担決め、その間、数回の打合せを繰り返し、お互いの助け合いの中から目途がたってきた。

その中でも今回は、印刷業者とパソコンでのデータのやり取り等スピーディに進行することができた。この中心としてそのシステムを駆使した笹川委員の力は大きなものがあった。

30年間の歩みとして、会員の動向、写生地、展示会、ボランティア展示等々分かりやすく一覧表にして足跡を辿ってみた。

先輩諸兄の歩まれたこ30年間に想いを馳せるとともに、アドバイザーになっていたいただいた諸先輩のお力をお借りできたことに感謝申し上げます。

そして、会員51名の思いのある代表的な作品2点をコメントを付記して提出いただいたことに有り難くお礼を申し上げます。

最後に、30周年記念誌発刊に携わっていただきました関係者の皆様本当にご苦様でした。

(和泉記)

(表紙絵：廣瀬禮男)

パナソニック松愛会 絵 画 部 30 周 年 記 念 誌

発 行	パナソニック松愛会 絵画部
代 表	廣 瀬 禮 男
編 集 委 員	石 田 昇 木 谷 晃 夫 澤 井 忠 和 泉 英 夫 木 野 由 夫 笹 川 和 正 杉 山 恭 子
発 行 日	2011年(平成23年)8月26日
編 集	絵画部30周年記念誌編集委員会
印 刷	株式会社 フイット
	〒574-0046 大阪府大東市赤井1丁目2番10号5F

(廣瀬禮男代表は出稿後の2011年6月3日にご逝去されました)

